

第二次世界大戦期の米国テキサス州における シーガビル収容所と収容者の実態

武 井 勲

Isao TAKEI. An Investigation of the Conditions at Seagoville Enemy Alien Detention Station and Experiences of Internees During World War II. *Studies in International Relations*. Vol.43. July 2023. pp.25-33.

This study investigates the role and characteristics of Seagoville Enemy Alien Detention Station which existed during World War II in Texas, and its internees. If a prison camp could ever be described as comfortable, the Seagoville internment camp, southeast of Dallas, may have been “the most comfortable” internment camp in the U.S. It held Japanese, German, Italian married couples without children, single women detained as enemy aliens arrested within the U.S., and those brought from Central and South America. Yet, little is known about its internees, and there seems to exist only two short descriptions of the Japanese: (1) about fifty Japanese language teachers from California who were arrested on suspicion of being disloyal to the U.S.; (2) a voyage of some Japanese families and other nonofficial persons who were shipped from their countries of residence in Central and South America to Seagoville Internment Camp. Considering such limited information about internees at this site, one contribution of this study is the introduction of six Japanese women who were sent from Hawaii to the mainland U.S. and interned at this facility. The author identified the subjects from the Hawai'i Internee Directory held by the Japanese Cultural Center of Hawai'i (JCCH).

キーワード： テキサス州 シーガビル収容所 日本人収容者

はじめに

第二次世界大戦中、米国ではおよそ12万人の日系人が、敵性外国人として「戦時転住局(WRA¹)」が管理・運営する10か所の「戦争移住センター(Relocation Center)」に収容された。米国における日系人の強制収容として一般的に知られているのは、カリフォルニア州のマンザナーやトゥーリーレイク、ワイオミング州のハートマウンテンといった「戦争移住センター」での苦難の歴史である²。

また「戦争移住センター」とは別に、「潜在的に危険な」敵性外国人およびその家族が、司法省から権限を付与され、国務省とも連携していた「移民帰化局(INS³)」が管理・運営した施設に収容された。ドイツ人と少数のイタリア人も移民帰化局の管理下に置かれたが、大部分は日系人であった。この施設は、「戦争移住センター」よりもかなり小規模であった⁴。これらは、「Internment Camp」

や「Detention Center (もしくはDetention Camp, Detention Station)」と呼ばれるが、本稿では「収容所」と表記する。

テキサス州には、クリスタルシティ、ケネディ、そしてシーガビルの3か所に、この移民帰化局が管理する収容所が存在した。サンアントニオのフォート・サム・ヒューストンと、エル・パソのフォート・ブリスにも収容施設が存在したが、それらは陸軍の駐屯地を利用した「臨時収容所」と位置づけられる。

本稿は、シーガビル収容所と収容者の実態を、筆者自身の調査を交えながら明らかにしようとするものである。クリスタルシティやケネディと比較して規模の小さいシーガビル収容所に関する情報は、かなり乏しいものである。例えば、この収容所についてはテキサス州の日系人に関する主要文献の一つであるThomas K. Walls著*The Japanese*

Texans の中でも、3ページほどしか記述されていない。他には、テキサス州内の収容所についてテキサス歴史委員会（THC⁵）が公開している電子ファイルに2ページ、そしてRon Tyler他編 *The New Handbook of Texas* の、2ページにわたる「第二次世界大戦期の収容所」の項目において1段落の記述が見られるだけである⁶。

資料の検討の結果、シーガビル収容所には大きく分けて2つの期間があったと捉えられる。一つ目は、日本人、ドイツ人、そしてイタリア人の子供のいない夫婦と独身女性を収容した期間である。彼らは設備が整った施設の中で快適な収容生活を送っていて、今日ではその建物に文化的価値が見出せるということもあり、その点でシーガビルは全米の収容所の中でも極めて特異な存在であった。

二つ目は、中南米の国々から国外退去となり、移送されて来た日本人が滞在した期間である。移民帰化局は、強制収容により離散した日本人家族をシーガビルで再会させるため、仮設住宅を調達することで受け入れの態勢を整えていた。ところが丁度その時に、中南米で敵性外国人とみなされた人々（主に日本人）がテキサス州に連行されて来たのであった。結局、シーガビルでは日本人家族を再会させるという目的を達成出来なかった。そしてこのことが、州内に新たに家族用のクリスタルシティ収容所が設置されるきっかけの一つとなったのである。

国籍別の収容者数については、文献や資料を見渡しても、日本人の大まかな人数が記されているだけでドイツ人とイタリア人に関する情報は見当たらない。収容者の氏名については、カリフォルニア州から連行されて来たワダという日本人女性の名字が、文献の一つに記されているだけである。

一方、筆者がハワイ日本文化センター（JCCH⁷）の「ハワイ州被収容者名簿」（The Hawai'i Internee Directory）を検索したところ、当時ハワイ準州に居住していた6名の日本人女性が、1942年の夏から1943年の春にかけてシーガビルに収容され、次いで同じテキサス州内のクリスタルシティにも収容されていたことが判明した。これは、既存の文献には触れられていない、興味深い史実であろう。

これまでの検証の結果、シーガビルに収容されていた日本人は州外や中南米から移送されてきた人々であるが、地元テキサス州に在住していた日系人は戦時中の影響を受けずに生活していたことがうかがえる⁸。また中南米、特にペルーからテキサス州への日本人の国外追放は、彼らの経済的成功に対する強い反発の表れであった⁹。筆者はテキサス州内での日本人の収容体験を通して、移住先での社会が収容された人々に対して抱いていた姿勢について理解することを目指しており、本稿はその一環でもある。

1. シーガビル収容所—収容所に似つかわしくない快適な施設—

ダラス南東部の小さな町にかつて存在したシーガビル収容所は、米国内の収容所の中で、最も快適な施設であったとされる¹⁰。そこはまた、ニュー



写真1 シーガビル収容所の入口の門

（提供：テキサス大学サンアントニオ校のスペシャルコレクション No. 085-0913）



写真2 シーガビル収容所の外観

（提供：テキサス大学サンアントニオ校のスペシャルコレクション No. 085-0910）

ヨークのエリス島に次いで最も美しい、移民帰化局の監禁遺跡と言われている¹¹。

シーガビル収容所は元々、連邦刑務所局が比較的刑罰の軽い女子の感化院として1941年に建設したのだが、1942年4月1日に移民帰化局の管理下に置かれた。これには、捕虜と、敵性外国人として検挙された民間人を刑務所に拘留することを禁じた、1929年のジュネーブ条約が関係している。この条約により、連邦刑務所局は第二次世界大戦中、民間人を強制収容する責務を負うことが出来なかったからである¹²。

シーガビルには、米国内で敵性外国人として検挙された日本人、ドイツ人、イタリア人の子供のいない夫婦と独身女性、その他中南米から連行されて来た人々が、仮釈放や本国に送還されるまでの期間収容されていた。1942年から1943年にかけては少数の家族も収容されていたが、州内のクリスタルシティ収容所が運用を開始するとそちらに移送されたため、家族の収容は一時的なものであった¹³。

数百エーカーの敷地には、植民地様式の赤レンガの建物が12棟あった。それらは舗装された歩道と車道で結ばれており、広大な芝生に囲まれていた。施設の訪問者はその佇まいに目を見張り、まるで大学のキャンパスのようだと述べている¹⁴。

それでも、収容所は高い金網のフェンスで囲まれていて、唯一の出入り口は常に監視されていた。収容所を取り囲む舗装された道路の真ん中に塗られた白線は、収容者がそれ以上超えてはならないという境界を表していた¹⁵。

6つの寄宿舎には合計352の部屋があり、床にはじゅうたんが敷き詰められ、ベッドと机、ダンス、そして洗面台が備えられていて、ホテルの様であった。また各階には共同の洗濯場、浴場、そしてトイレがあった。各々の宿舎には冷蔵庫、ガスコンロ、食器洗い機付きの台所もあり、食堂にはリンネルのテーブルクロスが敷かれたいくつかのテーブルがあり、その上には布ナプキンと、上品な陶磁器と銀食器が置かれていた。収容者らは監視の下、自分たちで料理をした¹⁶。

シーガビルには他にも、病院や大きなレクリエー

ション用の建物があった。病院では一人の女医が病棟を管理し、6人の医師、10人の看護師、1人の歯科医師、そして1人の検査技師を監督していた。レクリエーション用の建物内のホールでは、収容者らが演じたバレエや舞台作品といった、様々な活動が催された。また、その建物にはオーケストラ用の楽器、英語や音楽教育用の12の教室、複数の言語で書かれた本を置いた図書館、そして裁縫や編み物用の部屋があった。屋外では、園芸、農業、テニス、野球、バドミントン、収容所内の散策といった活動が行われていた¹⁷。

シーガビルは収容所に似つかわしくない快適な施設だったが、それでも収容者には不満があった。多くは、収容所が引き続き刑務所長のエイミー N. スタナード氏によって管理されていることに憤慨していた。収容者らは更に、手紙の検閲や発送可能な郵便物の制限に嫌悪していた¹⁸。

1942年の夏の終わりに、移民帰化局はシーガビルにいる家族と他の収容所にいる日本人男性を再会させる計画を打ち出した。これを見込んで、ニューメキシコ州のサンタフェ収容所から、18平方フィート（一辺5.5メートル）一間の、合板壁の仮設住宅「ビクトリー・ハット」50戸を受注した。更に台所と食堂が入る、大きな建物が1軒建設された。洗濯室と、男女別々の共同トイレと浴場も建設された¹⁹。ところが同年、工事が済んで間もなく、中南米から国外追放されて来たおよそ250人の日本人が入所したため、日系アメリカ人家族を再会させることは出来なかった。そこで開設されたのが、同じ州内のクリスタルシティ収容所であった²⁰。

上述の通り、シーガビルにおける国籍別の収容者数は一般的に知られていない。それでも、筆者がテキサス歴史委員会から入手したテキサス州内の収容所に関連する資料の中から、1942年の国籍別の収容者数を示す書類を特定することが出来た（表1参照）。記載されているのはパナマ運河地帯と南米から連行されて来た収容者数だけであるが、筆者の知る限り、これらは既存の文献には触れていない情報である。

シーガビルにおける収容者数が最大に達したのは1943年で、647人であり、加えて120人の移民

表1 パナマ運河地帯および南米から連行されて来た収容者の人数、1942年

	ドイツ人		イタリア人		日本人		その他の国籍		合計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男女合計
パナマ運河地帯	8	29	1	2	6	7	8	25	23	63	86
南米	16	8	—	3	54	109	8	20	78	140	218
合計	24	37	1	5	60	116	16	45	101	203	304
男女合計		61		6		176		61		304	304

出所：テキサス歴史委員会から入手した書類, Number of Enemy Aliens in Custody 1942.

帰化局職員と軍属がいた。同年9月には、いくつかの例外を除き、中南米から移送されて来た日本人は全員日本へ送還され、数家族がクリスタルシティへ移送された。同年9月末から、施設が連邦刑務所局に返還され、収容所が閉鎖した1945年6月までの期間、残った収容者は独身女性と子供のない夫婦だけとなった。施設が閉鎖すると、彼

らは本国に送還されたり、釈放されたり、他の収容所に移送されたりした²¹。

2. シーガビルにおける日本人収容者

シーガビルにおける日本人収容者の状況を明らかにするため、カリフォルニアと中南米から移送されて来た日本人についての記述と、ハワイから連行されて来た女性6名に関する情報を利用する。これらを以下に記してみたい。

(1) カリフォルニアから移送されて来た女性教師

中南米からの日本人が到着する以前、シーガビルではFBIによって逮捕された日本人女性を50人ほど収容していたが、彼女らはカリフォルニアで日系2世の子供たちに日本語と日本文化を教えていた教師であった。こうした教室は放課後に開かれていて、子供たちに日本の伝統や言葉を学ばせることを望んでいた1世の親たちに、大変人気があった。しかし戦争が始まるとこうした教室は閉鎖され、教師の多くは米国に忠誠ではないという容疑で逮捕されたのであった²²。

収容された教師たちの、アメリカへの忠誠心を決して疑うことのなかった一人の男性が、「キリスト友会（The Society of Friends）」（一般的な呼称はクエーカー、Quakers）の信者であるハーバート・V・ニコルソンという人物であった。キリスト友会は、戦時中の強制収容に抗議して日系アメリカ人を擁護した、数少ない団体の一つであった。ニコルソンは、かつて日本に派遣されたことのあるクエーカーの宣教師であり、戦前にはロサンゼルスで日系アメリカ人の会衆の代表を務めており、全米各地の様々な収容施設を訪問していた²³。



写真3 運動着姿の男性・女性収容者と、楽器を持った音楽隊（右）

（提供：テキサス大学サンアントニオ校のスペシャルコレクション No. 085-0911）



写真4 収容者のスカーフ、ブラウス、セーター、靴など

（提供：テキサス大学サンアントニオ校のスペシャルコレクション No. 085-0912）

ニコルソンがシーガビルに会いに来た女性の一人が、ロサンゼルスで牧師で旧友でもあるワダ氏の夫人であった。ニコルソンは、ニューメキシコ州ローズバーグにある男子専用の収容所にいるワダ牧師との最近の面会について、夫人に話して聞かせた。ニコルソンはまた、コロラド州のアマチ収容所にいる夫妻の2人の娘との面会についても話した。ワダ夫人はもちろん夫や子供たちに手紙を書いてはいたが、一週間につき検閲を受けた手紙3通と、はがき1通に制限されていた²⁴。

（2）中南米の3か国を国外退去となった人々

戦時中、中南米の16か国が、少なくとも8,500人の日系人、ドイツ人、そしてイタリア人を収容した。また、その中の12か国が一部もしくは全ての敵性外国人の収容者を、米国に移送した²⁵。

その数はおよそ3,000人に上り、うち2,264人とされる日系人が、日本で拘束されているアメリカ人と交換する目的で居住国を国外追放され、米国に連行された。日系人収容者の約半数は、収容所内で日本への強制送還を待つ夫や父親に合流することを求めた、二世を含む家族の者であった。また日系人の80パーセント以上は、ペルーから連行されて来た。こうした人々は日系アメリカ人と共に、主にテキサス州内の施設に収容された（テキサス州外では、モンタナ州のフォート・ミズーラ収容所が挙げられる）²⁶。

中南米に居住していた日系人がシーガビルに移送された際の、短い記述がある：

1942年4月13日、140人を下回る人数の日本人家族の一団が、ペルーを出航した。パナマ運河を経由してニューオーリンズに向かう途中、エクアドルとコロンビアに停泊すると、そこで合計48人の日本人外交官と領事館職員が乗船させられた。ニューオーリンズに到着すると、外交官らは一団の中の21人の民間人と引き離された。民間人らは、非合法的に米国に入国したと告げられ、シーガビル行きの列車に乗せられた²⁷。

また、パナマでは戦時中に300人ほどの日本人が収容所に収容され、正確な人数は不明であるが、

1942年4月に米国本土の収容所に移送されたという記述がある²⁸。よって、上記の船でシーガビルに移送された、パナマからの日本人が存在した可能性もあると推測できる。実際に、13人の日本人が1942年にパナマからシーガビルに連行されていたことが、表1に示されている。

（3）ハワイから移送されて来た6名の女性

筆者がハワイ日本文化センター（JCCH）の「ハワイ州被収容者名簿」を検索したところ、ハワイから米国本土に移送されて来た日本人女性6名が1942年の夏から翌年の春にかけて、シーガビルに収容されていたことが判明した。

この名簿には被収容者の氏名、生まれた年、1941年の居住地、職業、ハワイで拘束された年と月、収容先、ハワイから米国本土に移送された年と月、ハワイに帰還した年と月、それに同様に収容された家族の情報等が記載されている（表1参照）。全員に共通する収容の行程は以下の通りである：

- ① ホノルルのサンドアイランド収容所に収容される。
- ② 1942年6月21日、大部分が1世の39名の男性と共に、「第4移送船」で米国本土に移送される。
- ③ 1942年6月から翌年7月もしくは8月まで、カリフォルニア州のシャープ・パーク収容所に収容される。
- ④ 1942年7月または8月から、翌年4月もしくは5月まで、シーガビルに収容される。
- ⑤ 同じテキサス州内の、家族用のクリスタルシティに収容される。
- ⑥ 1945年12月、およそ775人の収容者と共にハワイに帰還する。

これら6名の女性は家族との再会を求めて収容所入りしたのではなく、1世の男性と同様に逮捕された上で収容されたのであった。恐らく、聖職者や教師といった職種に就く者は日本人コミュニティのリーダー的存在とみなされたため、米国本土まで移送されたと考えられる。

彼女らは家族と隔離され、収容所の行き先も異なっていた。例えば、川崎、宮王ユキ、山根には

表2 「ハワイ州被収容者名簿」の検索から特定された日本人収容者

	氏名	生年	居住地	職業	拘束された年月	追加事項
①	川崎深雪 <small>かわさき みゆき</small>	1898年	オアフ島ワイパフ	天理教の神職	1941年12月	夫の諒策（大工、アレクサンダー・ヤング・ホテル勤務）とクリスタルシティで再会し、同じ船でハワイに帰還した。息子のエドワード・シズオは第二次世界大戦中、米軍に従事した。
②	田中ハル <small>たなか はる</small>	1893年	オアフ島ワヒアワ	ワヒアワ昭和日本語学校の校長	1941年12月	ミシヨン系大学である広島女学院を卒業後、ヒロに住んでいた兄を頼ってハワイに移住した。ハワイ島のヒロ独立学校で、日本の手芸や生け花等を教えたこともある。
③	堀部キク <small>ほりべ きく</small>	1877年	カウアイ島ワイメア	日系新宗教の一つである金光教の神職、リフエ布教ホールで活動	不明	サンドアイランド収容所の前に、カウアイ島のワイルア郡刑務所に収監されていた。
④	宮王ユキ <small>みやおう ゆき</small>	1902年	オアフ島ホノルル	ハワイ出雲大社の神職	1941年12月	真珠湾攻撃直後、ハワイ出雲大社の宮司であった夫の重丸と共に拘束されたが、夫の継母の宮王芳枝（以下の⑤の人物）と間違えられたと見られる。3人の子供はハワイで両親と引き離され、ノースカロライナ州で収容生活を送っていたが、クリスタルシティで合流した。
⑤	宮王芳枝 <small>みやおう とよえ</small>	1892年	オアフ島ホノルル	ハワイ出雲大社の神職	1941年12月	夫はハワイ出雲大社の初代分院長、宮王勝良である。夫の前妻の娘と暮らしていたが、異なる収容所に送られたために再会を要請したところ、クリスタルシティで合流を果たした。
⑥	山根ツタ <small>やまね つた</small>	1898年	オアフ島ホノルル	不明	1941年12月	大家であった夫の清義とクリスタルシティで再会し、同じ船でハワイに帰還した。

配偶者がいたが、彼らは別々の船で米国本土に移送され、カリフォルニア州のエンジェル島収容所やニューメキシコ州のサンタフェ収容所などに別々に収容されていた。最終的に、家族を持つ者は上記⑤のクリスタルシティで再会し、上記⑥の同じ船でハワイに帰還している。

3. シーガビル収容所跡地の現在

今日、シーガビルは警備レベルの低い連邦刑務所となっている。警備上の理由により施設に接近する者は全て監視されていて、周辺の写真撮影も禁止されている。

筆者は2022年9月に、施設の正面入口にあるテキサス歴史委員会（THC）が設置した「ステート・ヒストリカル・マーカー」と呼ばれる金属製の案内板を確認するために、現地に赴いた。滞在先のオースティンから車で片道約3時間かけての訪問だったが、あいにく担当者が不在であったため、撮影許可は下りなかった。

収容所の案内板はテキサス州の所有物なので、本来ならば写真撮影を妨げる理由など無い。しかしシーガビルの案内板は刑務所の敷地内という特殊な場所に設置されているため、担当者の立ち合いが必須なのである。

また、かつて収容所として使用されていた建物の一部は現存するが、これらの写真撮影も不可能であった。

そこで筆者は、テキサス州内に設置されているあらゆる案内板を撮影し、説明を添えてオンライン上で公開している「ザ・ヒストリカル・マーカー・データベース」という組織に問い合わせしてみた。すると2020年9月6日に現地を訪れ、案内板とその周辺の撮影を許可されたというカイラ・ハーパー氏から返信があり、写真の使用を認めていただいた。そのいくつかを、以下に紹介する。

テキサス歴史委員会（THC）は、州内のクリスタルシティ収容所の敷地沿いに複数の説明パネルを設置している。しかしシーガビルには、そうしたパネルを設置することが出来ないため、代わりにロールアップバナースタンド（支柱にスクリー



写真5 正門の側に立つ案内板

（提供 ザ・ヒストリカル・マーカー・データベースの
カイラ・ハーパー氏）



写真6 フェンスの外側から見た連邦刑務所

（提供 ザ・ヒストリカル・マーカー・データベースの
カイラ・ハーパー氏）

ンを垂直に引き伸ばして張る、巻き取り式バナースタンド）が町の図書館に寄贈されていて、それを見ることは可能である²⁹。

おわりに

本稿では、テキサス州ダラス南東部の小さな町にかつて存在した、シーガビル収容所と収容者の実態について、筆者自身の調査を交えながら検討を試みた。

シーガビルが稼働したのは1942年4月から1945年6月までの3年2か月間で、収容者数が647人とピークに達したのは1943年のことであった。この施設では米国内に居住する日本人、ドイツ人、そしてイタリア人の子供のいない夫婦と独身女性を収容し、途中から中南米の国々を追放された人々

も収容した。

収容者に関する情報は乏しく、ドイツ人とイタリア人の実態は不明であり、日本人についての若干の記述が残されている程度である。ゆえに、ハワイの日本人女性6名がこの施設に収容されていたという新たな発見は、興味深いだけでなく、大変有益なものであろう。彼女たちは同じテキサス州内のクリスタルシティにも収容され、そこで家族と合流した者も含まれていることから、テキサス州内で収容されたハワイからの日本人が他にも存在すると見込まれる。こうした人々を特定することで、日系人の強制収容に関するテキサス州内の収容所の役割を理解することも、筆者の今後の重要な課題である。

これまでの検証から、シーガビルを含むテキサス州内の収容所に収容されていた日本人は州外や中南米から連行されて来た人々であり、州内で暮らしていた日本人は数百人と少なかったこと、また農業分野での影響力があったことから、戦時中の影響を受けることは皆無に等しかったようである。また中南米、特にペルーでの日本人の国外追放は、彼らの経済的成功を妬むペルー社会の拒否反応であった。

このように、テキサス州内で収容された日系人の体験を通して、我々は当時の日本人・日系人に対する米国や中南米の国々、とりわけテキサス社会の姿勢、人種間の関係を理解することが可能である。本稿で取り上げたシーガビル以外の収容所の検証や、戦時中の1世もしくは2世を先祖に持つ日系アメリカ人に対する聞き取り調査を織り交ぜることで、海外に生きた日本人の存在や現地社会との葛藤に対する理解を深めていきたい。

註

1. WRA = The War Relocation Authority.
2. 例えばBrown, Daniel James. 2021. *Facing the Mountain: A True Story of Japanese American Heroes in World War II*. New York, NY: Viking; Daniels, Roger. 1993. *Prisoners without Trial: Japanese Americans in World War II. Revised Edition*. New York, NY: Hill and Wang;

Gruenewald, Mary Matsuda. 2005. *Looking like the Enemy: My Story of Imprisonment in Japanese-American Internment Camps*. Troutdale, OR: New Sage Press; Houston, Jeanne Wakatsuki and James D. Houston. 1973. *Farewell to Manzanar*. Boston, MA: Houghton Mifflin Company; Inada, Lawson Fusao, Ed. 2000. *Only What We Could Carry: The Japanese American Internment Experience*. Berkeley, CA: Heyday; Reeves, Richard. 2015. *Infamy: The Shocking Story of the Japanese American Internment in World War II*. New York, NY: Henry Holt and Company.

3. INS = The Immigration and Naturalization Service.
4. Walls, Thomas K. 1987. *The Japanese Texans*. San Antonio, TX: The University of Texas Institute of Texan Cultures at San Antonio, p. 176.
5. THC = The Texas Historical Commission.
6. Brosveen, Emily. 1996. "World War II Internment Camps." In *The New Handbook of Texas*. Volume 6, pp. 1082-1083, edited by Ron Tyler. Austin, TX: The Texas State Historical Association, p. 1082; The Texas Historical Commission (THC). August 2020. *Fort Bliss, Fort Sam Houston, Kenedy, Seagoville, and Crystal City: Enemy Alien Internment in Texas During World War II*, pp. 8-9. https://www.thc.texas.gov/public/upload/publications/Alien_Enemy_Brochure_08_20.pdf; *Ibid.*, pp. 185-187.
7. JCHH = The Japanese Cultural Center of Hawai'i.
8. 武井勲. 「受容と同化の観点から見た20世紀初期テキサス日系人の生活史再考」. 日本大学国際関係学部『国際関係学部研究年報』. 第41集, pp. 31-42. 2021年; 武井勲. 「第二次世界大戦期における日系アメリカ人の生活と戦争体験の地域性—テキサス日系人の苦境・白人との絆・命がけの忠誠に着目して—」. 『国際文化表現研究』. 第17号, pp. 117-135. 2021年; 武井勲. 「テキサス州クリスタルシティ収容所を

- 通して見る日系アメリカ人の戦争体験の地域性」. 日本大学国際関係学部『国際関係学部研究年報』. 第42集, pp. 33-43. 2022年; 武井勲. 「テキサス州ケネディおよびシーガビル収容所から見るテキサス日系人と日系ラテンアメリカ人の戦争体験—日系人差別のあり方を探る—」. 『国際文化表現研究』. 第18号, pp. 88-107. 2022年.
9. 例えばNiiya, Brian, Ed. 2001. *Encyclopedia of Japanese American History. An A-to-Z Reference from 1868 to the Present. Updated Edition*. New York, NY: Checkmark Books, p. 230; Robinson, Greg. 2009. *A Tragedy of Democracy: Japanese Confinement in North America*. New York, NY: Columbia University Press, pp. 150-152; The Civil Liberties Public Education Fund. 1997. *Personal Justice Denied: Report of the Commission on Wartime Relocation and Internment of Civilians*. Seattle, WA: University of Washington Press, pp. 308-309, 314.
 10. Tang, Irwin A. and Thomas K. Walls. 2007. “Chinese Texans and Japanese Texans during World War II.” In *Asian Texans: Our Histories and Our Lives*, pp. 131-153, edited by Irwin A. Tang. Austin, TX: The it Works, p. 142.
 11. THC, *op. cit.*, p. 8.
 12. *Ibid.*
 13. *Ibid.*
 14. Brosveen, *op. cit.*, p. 1082; Walls, *op. cit.*, pp. 185-186.
 15. Brosveen, *op. cit.*
 16. *Ibid.*; Walls, *op. cit.*, p. 186.
 17. Brosveen, *op. cit.*
 18. *Ibid.*
 19. *Ibid.*
 20. THC, *op. cit.*, p. 9; Walls, *op. cit.*, p. 187.
 21. Brosveen, *op. cit.*; THC, *op. cit.*, pp. 8-9.
 22. Walls, *op. cit.*, p. 186.
 23. *Ibid.*
 24. *Ibid.*, p. 187.
 25. The Civil Liberties Public Education Fund, *op. cit.*, p. 307.
 26. Niiya, *op. cit.*, pp. 229-230; Robinson, *op. cit.*, pp. 150, 152; The Civil Liberties Public Education Fund, *op. cit.*, pp. 305, 311; Walls, *op. cit.*, p. 183.
 27. Walls, *op. cit.*, p. 185.
 28. Robinson, Greg. 2018. “The Unknown History of Japanese Internment in Panama.” *Discovery Nikkei: Japanese Migrants and Their Descendants*. <http://www.discovernikkei.org/en/journal/2018/4/26/japanese-internment-panama/>.
 29. Rakoczy, Lila. 2019. “Preserving Second World War Internment History: A Texas Perspective.” A transcript of a presentation at the Preserving U.S. Military Heritage: World War II to the Cold War, June 4-6, 2019, held in Fredericksburg, TX. <https://www.nps.gov/articles/000/preserving-wwii-internment-history-in-texas.htm>.